

## 令和7年度第2回 福岡市文化財保護審議会について

## 1. 日時

令和8年2月5日（木） 10時00分～12時00分

## 2. 場所

福岡市赤煉瓦文化館 会議室3

## 3. 出席者〔委員〕 ※五十音順、敬称略

上原 誠一郎	（鉱物学）	元九州大学大学院助教
佐伯 弘次	（中世史）	九州大学名誉教授
坂上 康俊	（古代史）	九州大学名誉教授
須永 敬	（民俗学）	九州産業大学教授
高橋 昌彦	（国文学）	福岡大学名誉教授
藤岡 健太郎	（近代史）	九州大学教授
松岡 高弘	（建造物）	有明工業高等専門学校名誉教授
宮岡 真央子	（文化人類学）	福岡大学教授
宮本 一夫	（考古学）	九州大学名誉教授

## 4. 議 事

- （1）令和7年度福岡市指定文化財候補について
- （2）今後の福岡市指定及び登録文化財候補 東光院について

## 5. 事務局報告

- （1）史跡の整備等について

## 今後の福岡市指定及び登録文化財候補 東光院について

### 今後の指定および登録文化財候補の概要

種別	有形文化財（建造物）
名称及び員数	指定候補：東光院本堂 1棟、東光院聖天堂 1棟 登録候補：東光院新聖天堂 1棟、東光院仁王門 1棟
所在地	福岡市博多区吉塚3-20-37他
所有者	福岡市

### 概要

東光院は、大同元年（806）に創立された薬王寺を前身とする。正保4（1647）年に二代藩主黒田忠之が福岡城近くの密寺東光院と合併し、宗旨を真言宗に改め薬王密寺東光院となる。昭和44年には真言宗御室派から独立し、総本山薬王密寺東光院となる。

境内に保管されていた仏像のうち、『筑前国続風土記』に伝教大師の彫像であり常に秘仏として50年に一度開帳されたと記されている本尊薬師如来立像、その他25体の仏像が国の重要文化財、絵画12点が県の文化財に指定されている。境内地とともにそれらの文化財が市に寄贈され廃寺となったことを機に、文化財とともに境内の保存、整備、活用を図るため、昭和49年（1974）に市指定史跡となる。

境内には、寛永年間末の火災後に再建された正保元（寛永21）年（1644）建立の本堂、昭和11年（1936）建築の聖天堂のほか、新聖天堂と仁王門が、当該史跡の主要な構成要素として現存する。



東光院本堂



東光院聖天堂



東光院仁王門

### 今後の指定・登録文化財候補の理由および方針

東光院は、市指定史跡としての文化財価値は評価されているものの、史跡の主要な構成要素である各建造物について、本質的な調査および文化財建造物からみた価値の位置づけがなされていない。

市内において現存する最古の木造寺院建築である本堂、県内の近代社寺建築の設計者として著名な黒木利三郎による聖天堂の計2棟を指定候補、市内において希少な構造形式である仁王門、境内の歴史的景観を有する新聖天堂の計2棟を登録候補として、令和7～8年度に各調査を行い有形文化財（建造物）としての価値付けを行うもの。

#### 【参考：指定文化財】

- ・国指定重要文化財（彫刻） 東光院旧蔵 木造薬師如来立像ほか
- ・県指定有形文化財（絵画） 絹本著色十二天像
- ・市指定（史跡） 東光院境内

## 《追加調査》近世の東光院の堂宇修理

【史料1】東長寺文書1881「御触ニ付書上記」

### (1) 作成年代

天明4年(1784)閏正月

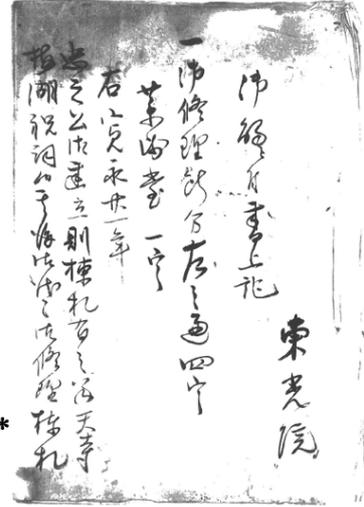
### (2) 概要

天明期に藩から、修理履歴の照会があった際に東光院が回答した書き上げの控えと推定される。

### (3) 伝来

江戸時代、東長寺が藩内の真言宗の触頭(ふれがしら)\*の一寺院であったため伝来したと推測される。

\*宗派の末寺を統制する役目



※東長寺文書1881「御触ニ付書上記」(福岡市総合図書館マイクロフィルム)

## 近世の東光院堂宇一覧

典拠:主に【史料1】東長寺文書1881、  
現存状況は、現在の調査による

建物名	建立年	建立時の藩主	御軒付状況	現存状況	備考
薬師堂	寛永21年(1644)	黒田忠之	建立時から?御軒付	調査中	
客殿	寛永18年(1641)	黒田忠之	建立時から?御軒付	調査中	
仁王門	寛永21年(1644)	黒田忠之	建立時から?御軒付	調査中	
鐘楼	未詳	黒田忠之カ	建立時から?御軒付	×	現存のものは近現代再建カ
荒神宮并御拝	寛永18年(1641)	黒田忠之	元禄頃、御軒付指除	×	天明4年時には既に解体
飞来権現社	慶安3年(1650)	黒田忠之	正徳以降?御軒付指除	調査中	元禄12年に綱政再興
弁財天堂並板橋	慶安3年(1650)	黒田忠之	元禄頃?御軒付指除	×	指除後、村中より修補
護摩堂	寛永・慶安頃	黒田忠之	元禄頃?御軒付指除	×	天明4年時には既に解体
中門并練堀	寛永・慶安頃	黒田忠之	元禄頃?御軒付指除	×	指除後、私修補
庫裏	寛永・慶安頃	黒田忠之	元禄頃?御軒付指除	調査中	指除後、私修補
住持居間	寛永・慶安頃	黒田忠之	元禄頃?御軒付指除	調査中	指除後、私修補
廊下	寛永・慶安頃	黒田忠之	元禄頃?御軒付指除	調査中	指除後、私修補

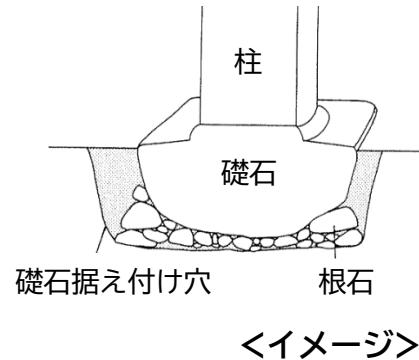
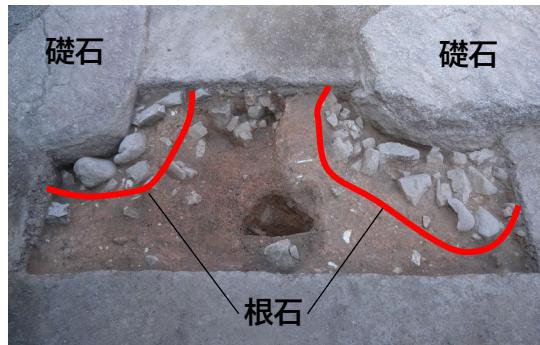
※御軒付(おのきづけ)とは、藩費で社寺を営繕する意と推定

「社寺の藩財にて営造するを御軒附と称す。」(伊東尾四郎編『福岡県史資料』第一輯、福岡県、1932年)

## 1 調査経過

### 【調査状況①】 礎石が江戸時代の姿を保っていることが判明した。

- ・天守台の地表に見えていた礎石の下から、江戸時代の工法で築かれた根石が見つかった。  
このことにより、礎石は江戸時代の姿のまま残されていたことが明らかになった。
- ・建物を建てることを前提として、礎石と根石でしっかりと基礎固めをしている構造である。



<イメージ>

### 【調査状況②】 江戸時代の建物に使用される部材が出土した。

#### ○瓦

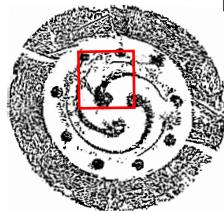
- 屋根の軒先に葺く瓦の一部が出土した。  
福岡城の瓦によく見られる巴文の模様がある。

#### ○釘 (和釘)

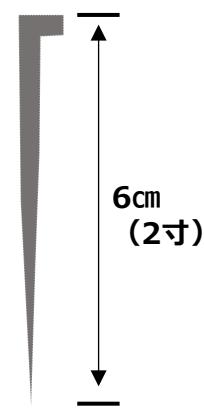
- 釘とみられる鉄製品が2点出土した。  
そのうち1点をX線で撮影したところ、長さ約6cm (2寸) の和釘であることが判明した。



出土品



瓦(軒丸瓦)



<推定図>

釘(和釘)

### 【調査状況③】 石垣調査

- 天守台内側(穴蔵部分)の石垣の現状と内部構造を明らかにするため、石垣内部のレーダー探査を実施中。

### 【調査状況④】 地盤調査

- 礎石の下の地盤の状況(固さ・地質など)を確認するため、天守台内部(穴蔵部分)のボーリング調査や圧密度調査を実施中。